

昭50-18848

実用新案公報

庁内整理番号 6814-38

⑬公告 昭和50年(1975)6月9日

(全2頁)

1

⑭中栓とキャツプとの間に収納室を有する壺

⑮実 願 昭44-26090

⑯出 願 昭44(1969)3月24日

⑰考 案 者 野沢孝光

東京都杉並区上荻2の17の10

⑱出 願 人 株式会社吉野工業所

東京都江東区大島3の2の6

⑲代 理 人 弁理士 渡辺軍治

図面の簡単な説明

第1図はキャツプと中栓とをそれぞれ縦断して示す分解斜視図、第2図は収納室形成状態における中栓、キャツプおよび壺口部の状態を示す縦断面図、第3図は収納室開放状態を示す縦断面図である。

考案の詳細な説明

本案はキャツプと中栓との間に収納室を設けた壺に係るもので、壺内とその収納室とにそれぞれ別に収納物を収めた状態でメーカーから消費者まで渡され、使用に際して消費者がキャツプを開ければ同時に収納室が開放され、その収納室内収納物が壺内収納物と混合されるよう設けたものである。

以下図面について説明すると、1は口部外面へ螺条を周設した壺、2はその壺口部へ螺合するようにした周壁3を有するキャツプで、その頂壁4の裏面には係合部5が設けてある。

中栓6は閉塞部材7と、筒状部材11との組合わせから形成してあり、閉塞部材7は前記キャツプの係合部5へ嵌合可能な先端部8を形成した突出部9の下端に閉塞板10を一体に付設したものである。その先端部8とキャツプの係合部5との嵌合は、図で示すように先端部8を膨大部とすると共に係合部5側にその膨大部を押し込み係合可能な穴を形成して行なつてもよく、また逆にキャツプ側へ膨大部を、先端部8側へ穴を形成してもよい。係合部5と先端部8とは後述のように、先

2

端部8上方からキャツプを締付けたとき、その係合部5と先端部8とが嵌合してキャツプ除去のとき閉塞部材7が共に除去されるよう設けたものであるから、そのような作用を達成可能であればその他公知の係合方法に替えることができる。また閉塞板10の上面は収納室15の底面を形成するものであるから閉塞部材7除去のとき別納収納物16の滑り落ちが容易であるよう斜下外方への傾斜面を形成するとよい。筒状部材11は前記閉塞板10で嵌合閉塞できる漏出孔12を下面に形成した筒状の部材で、その周壁13の外面を壺の口部内面へ緊密に嵌合可能としたものである。その周壁13の上端縁には壺口頂面へ係合可能な外向きフランジ14を設け、壺内へ落ち込まないように設けるとよい。

使用に当つては、壺内へ納入物を収納後、筒状部材11を壺口部へ嵌合し、突出部9を上方へ立てた状態で閉塞板10で漏出孔12を閉塞し、このようにして形成された収納室15内に別納収納物16を入れ、キャツプ2を壺口へ螺合する。その締付けによりキャツプ頂壁裏面の係合部5と閉塞部材7の先端部8とが係合する。この状態でメーカーから消費者まで送られ、消費者がキャツプを除去すれば第3図で示すように閉塞部材7も共に持ち上げられて漏出孔12から別納収納物16が滑り落ち、壺内収納物と混合する。

本案は上記のように構成するものであるから1個の壺内に2種の収納物を別々に、しかもその使用に際しては何らの手数を要せず混入できるから極めて便利であり、またそのための構成も極めて簡易であるから低廉なコストで生産することが可能である。

⑳実用新案登録請求の範囲

周壁3上面の頂壁裏面へ係合部5を設けたキャツプ2と、中栓6と、該中栓は、キャツプの係合部5へ嵌合係止可能な先端部8を有する突出部9下端に閉塞板10を付設した閉塞部材7とその閉塞板10で嵌合閉塞可能な漏出孔12を下面に形

3

4

成した筒状部材11とから形成し、また筒状部材11の周壁13外面を緊密に嵌合可能とした口部内面を有する壺1とからなり、周壁13外面を壺口へ嵌合すると共に突出部9を立てた状態で閉塞板10により漏出孔12を閉塞しておき、キャツ

プ周壁3を壺口へ嵌合したとき、キャツプ頂壁裏面の係合部5と先端部8とが係合して、キャツプ2と共に閉塞部材7が除去されるよう設けてなる中栓とキャツプとの間に収納室を有する壺。

